

# 新美南吉と救済所の狐



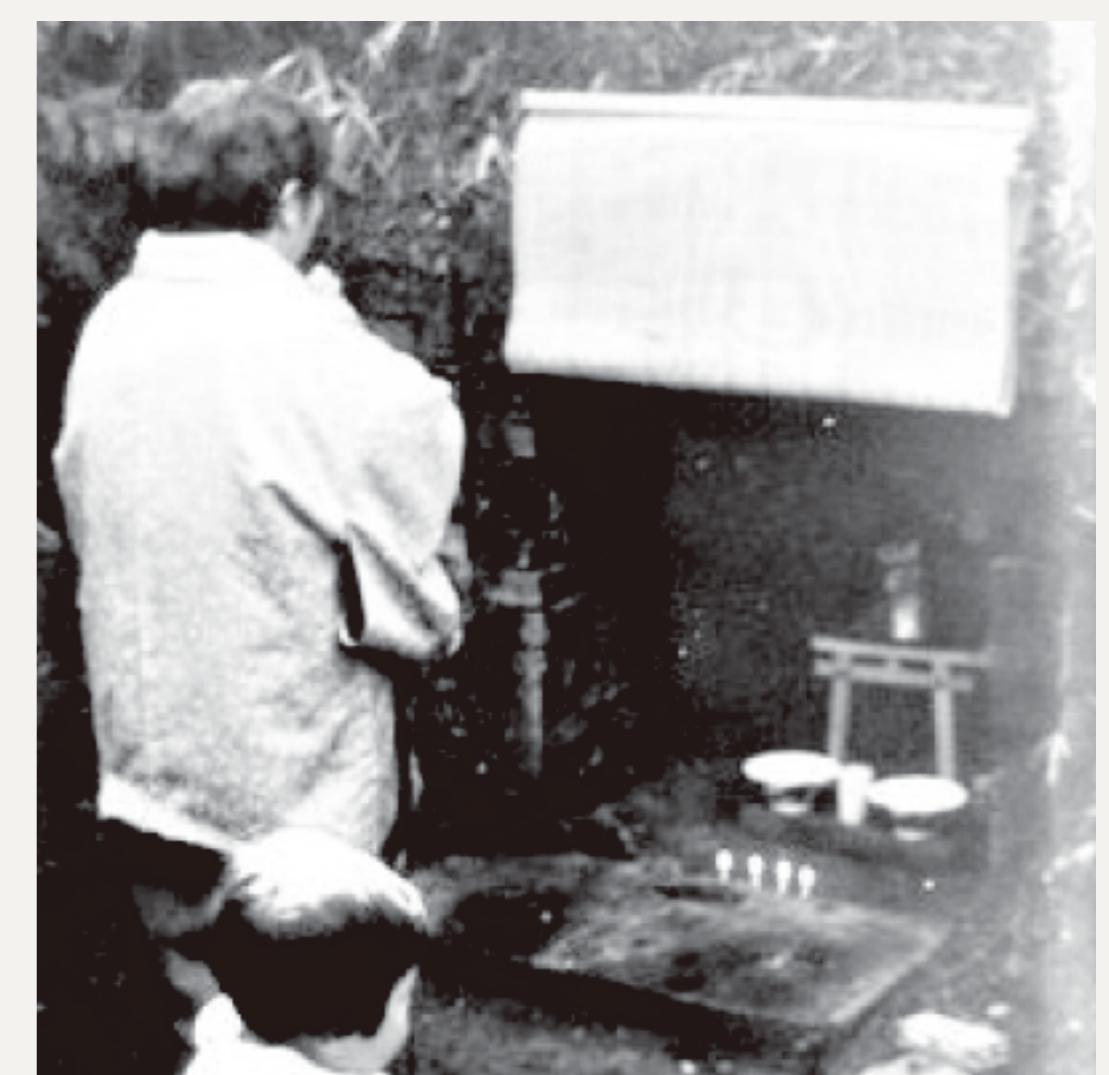
「亀三郎と三本足の白狐」の伝承が鴨根の村にあります。悲しくも心温まる実話です。

昭和12年(1937)冬、新美南吉は救済所のすぐ近所に住んでいました。救済所の子どもを自転車の荷台に乗せたこともあります。「三本足の白狐」の話も当然、聞いています。祠も見ています。

南吉の晩年の名作『狐』は鴨根の丘が舞台。足を引いた母狐も登場します。この母狐は救済所の狐がモデルであることは言うまでもありません。



上の写真は救済所に棲んだ三本足の狐を祀った稻荷神社です。地元の人々にも信仰され、毎年、お祭りもしていました。小高くなっている祠のすぐ下に狐の親子の棲んでいた洞穴がありました。右の写真です。救済所の人たちは洞穴の前にお供えしていました。南吉からこのことを聞いた翼聖歌(童謡作家)もここを訪れて「これが南吉が言っていた稻荷神社か」と日記に書いています。



## 狐の陶像を建立



救済所の狐の像が史跡公園(救済所跡)に建ちました。鴨根の土を使った常滑焼です。令和3年(2021)4月に除幕しました。綱の先頭は子ども達。亀三郎のように、強くてやさしい人になれ!



弱者救済所の狐の像(常滑焼)